知って備える 防災メモ 第13回

●基本的な安全確保行動 ～シェイクアウト～

シェイクアウトとは、地震が発生したときに行う基本的な安全確保行動のことを言い、米国カリフォルニア州で生まれ近年日本でも普及してきています。

安全確保行動は、『①低い姿勢で、②頭と体を守り、③じっとしている』という、小さい子どもでも簡単にできる重要な行動です。

▲基本的な安全確保行動①・②・③

シェイクアウトホームページ　http://www.shakeout.jp/

▲シェイクアウト訓練の様子

●シェイクアウト訓練の必要性

地震はいつ、どこで起こるかわかりません。地震が発生したとき、どのような行動をするかが、私たちの人生を大きく左右します。

シェイクアウト訓練は地震発生時、安全確保行動を行うことができるようにするための訓練です。

市は、シェイクアウトを皆さんに知ってもらうために、昨年7月の総合防災訓練の中でシェイクアウト訓練を実施したほか、市役所や市内小・中学校でも同訓練を実施しました。

家族や町内会などでシェイクアウト訓練を実施し、災害時に適切な行動が取れるように備えましょう。

問い合わせ　総務グループ（☎85-1130）

人が輝き　まちがときめく

仲間たち Group

登別俳句協会

心の内を花や雲に例え ありのまま表現する

『登別俳句協会』は昭和43年10月に、俳句に興味を持っていた方がたにより結成されました。

現在は29人のメンバーが市民会館で月に2回、第2週と第4週に曜日不定で13時から16時まで活動しています。普段の活動ではメンバーが句を持ち寄って発表し、互いに批評し合い、楽しみながら技術向上を目指しています。

同会は自分たちで句を詠むばかりでなく、美しい日本語を廃らせないようにと、市内の全小学校を対象にして子ども俳句大会を開催しています。9回目となる直近の大会では、804人の児童から句の応募がありました。

代表の袖山功さんは「俳句を詠んでいると感性が磨かれ、見える世界が変わります。また他人の句の中に人生の機微に対する深い考えが見えるのでとても楽しいですよ」と俳句の魅力について教えてくれました。

自宅で育てた季節の花を句会のたびに題材として携えて来るという飯島美千代さんは、「自分の心の内を花や雲に例えて、ありのままの自分を素直に表現できます。句を詠むのは難しいですが、奥が深く、勉強になります」と話します。

季語を通して物を見ると人生で出会う全ての物に好奇心が湧き、また句会に来て仲間と話をすると創作意欲が刺激されるそうです。

見学を希望する方は、袖山さん（☎86-3270）まで。

▲句に対して活発に感想を述べ合うメンバー

キウシト湿原のことをもっとよく知ってほしい

「ミズバショウやホタルの観察会を開くと、『湿原といえば道東と思っていましたが、登別にも住宅地の近くにこのような場所があったのですね』などと驚く参加者が多く、市民の皆さんにキウシト湿原のことをもっとよく知ってもらえたらうれしいですね」と話す堀本宏さん。

キウシト湿原は、平成9年、堀本さんが代表を務めていた市民団体『ふるさと自然情報局』が、有識者や市職員とともに現地調査を行った結果、まち中に残された貴重な湿原であることが分かり、平成13年には環境省『日本の重要湿地500』に選定されました。

「キウシト湿原には、都市化が進む前の登別の原風景が広がっています。平成14年に『キウシト湿原の会』を立ち上げた当時、湿原は乾燥化や外来植物の侵入などの危機に直面していましたが、地道に外来植物の刈り取り駆除を進めたところ、在来種が少しずつ復活するなど、保全の成果が表れてきています。しかし、最近はエゾシカが植物を食い荒らした跡が見つかるなど、保全には新たな課題もあります」と、堀本さんはこれまでの活動を振り返ります。

▲観察会の様子

湿原の魅力を市民に伝える活動を目指して

保全に加え、市民の憩いや自然環境学習の場としての利活用を図るため、市は、キウシト湿原に木道や柵、展望デッキの設置などを進めています。

「私たちも湿原の魅力を市民に伝える語り部のような活動を目指し、観察会を増やしたり、市民を丁寧に案内したりする体制を整えていきたいと思います。将来は、多くの市民が『自分たちが守り育てているふるさと登別の宝』という意識を持って、保全に関わってほしいですね」と話す堀本さん。

身近な自然を子どもたちに残すため、活動への思いを新たにしています。

昭和28年、長崎県五島市生まれ。60歳。
岩尾別さけ・ますふ化場（斜里郡斜里町）や札幌市豊平川さけ科学館を経て、平成５年から登別さけ・ますふ化場の場長を務める。仕事の傍ら、『キウシト湿原の会』会長として、自然保護活動に取り組んできた。

きらり
KIRARI

堀本（ほりもと） 宏（ひろし）さん（登別東町）

若山町に広がるキウシト湿原の保全や、同湿原に生息する貴重な動植物の保護・増殖などの活動に取り組む市民団体『キウシト湿原の会』が、平成25年７月にＮＰＯ（特定非営利活動）法人格を取得し、『キウシト湿原・登別』として新たなスタートを切りました。

同団体では、これまでの間、ササや外来植物の刈り取り駆除、在来種の育成などの活動のほか、写真展や観察会を開催し、市民に湿原の魅力を伝えてきました。

『キウシト湿原・登別』理事長の堀本宏さんに、キウシト湿原の保全や利活用への思いを聞きました。

ふるさと登別の宝という意識を持ち、保全に関わってほしい